

当たり前のために

伊勢原中学校3年 坂間 悠生

僕は毎朝、ニュースを見る。ニュースと言ってもたくさんあるが、その中にはもちろん悲しい出来事もある。それは僕にとって、とても悲痛で印象に残っている。テレビの中では、倒壊する建物、激しい銃声、炎に包まれる町、家族を亡くし、泣き崩れる人々、それらは僕の胸を締め付けた。今ではアメリカやロシア、イラン、イスラエルなどの大きな国同士の争いの他にも、スーダンやハイチといった、ニュースでは取り上げられることのない内戦も起こってしまっている。このような国や人同士の争いには自分と同じくらいの年の子、さらには自分より年の小さい子までもが、その争いに巻き込まれているのを知った時は、いつ日本、自分が争いに巻き込まれるのかわからないなど、少し身近な事のように思えた。

そのように思ってから、改めて自分の生活を振り返ってみた。一日三食をしっかりと食べることができて、学校に行って、友達と喋って、家に帰ったら家族がいて、という今できている当たり前の事がどれだけ貴重で大切な物、時間なのかを知ることができた。争いに巻き込まれた人々もこのような自分が当たり前だと思っていた生活を送っていたと考ええると、より身近で恐るべき事のように思えた。僕はこれからの高校の進路や将来やりたい事など「未来」のことについて話したりする。

だが、イランやウクライナにいる同級生の子供達は今、何を考えているのだろうと思った。明日の命さえ保証されない中、「未来」のことについて、話したり、考えたりすることなどできるだろうか。同じ時に生まれたはずなのに、その生まれた場所によってここまで生活や考え方が異なってしまうことに驚いた。今の自分にテレビの奥の泣いている人々のために直接できることが何もないことに無力さを感じた。しかし、ただただ「悲しい」「胸が痛む」で終わらせていいはずがないと思う。では、なぜ世界はこんなにも残酷な「争い」という問題を抱え続けているのだろうと思った。

まずなぜ争い、戦争が起きるのかを調べたら、二つの原因があることが分かった。一つは考え方や民族的な違いからである。さらに調べると争っている国や人にはそれぞれ守りたいプライドや歴史があることも分かった。お互いに自分が正しいと強く思ってしまうからこそ、武力に手を出したりしてしまうのかなと思った。二つ目は僕たちの「自分には関係ない」と思ったりする「無関心」だ。これは直接的な原因というより、間接的な原因になるが争いには大きな影響があると思う。ニュースを見て「かわいそう」と思っても、数分後には何とも思っていないという人が多いと思う。この他人事として切り捨ててしまうことが、争う人を野放しにし、巻き込まれる人々の声をかき消しているのではないだろうか。

このような残酷な争いを終わらせるために自分達ができることは、起きている争いに対して目を閉じず知り続け、他人事として聞き流さずテレビの奥の人々の暮らしや痛みについて考えることだと思う。その積み重ねが、争いという壁を壊す唯一の方法だと僕は信じている。テレビの奥の人々が僕と同じように当たり前に過ごせる日はいつ来るのだろうか。今ある当たり前に感謝しながら、自分達にできる平和を少しずつ形にしていこうと思う。